

パネルシアターで学ぶ 家族の多様性

東京都杉並区立
桃井第四小学校主任教諭
齋藤 麻由子
(さいとう まゆこ)

1 はじめに¹⁾

多様性（ダイバーシティ／diversity）とは「ある集団の中に異なる特徴・特性を持つ人がともに存在すること」です。ダイバーシティという言葉は、人種や国籍、性別、年齢、障がいの有無、宗教、性的指向、価値観などの多様性から、キャリアや経験、職歴、働き方といった職業生活における多様性まで幅広いジャンルで用いられています。

多様性には「表層的」「深層的」の2つの種類があり、外見で見分けられる生得的な特徴は「表層的ダイバーシティ」、外見からはわかりづらい内面的な特徴は「深層的ダイバーシティ」と呼ばれます。表層的ダイバーシティは「人種」「国籍」「性別」「年齢」など、深層的ダイバーシティは「経験」「スキル」「価値観」「文化的背景」などが具体例として挙げられます。

2 教師が「多様性に配慮した指導をする」

開隆堂の教科書では、子どもの認知特性の違いや特別支援教育の観点などから、だれもが理解しやすいような配慮や工夫が随所になされています（https://www.kairyudo.co.jp/contents/01_sho/2020/katei/pdf/shoka_tokushi.pdf）。

外国人等の児童に配慮すべき点についても詳しく記載されています²⁾³⁾⁴⁾。

調理実習では、外国の食文化や左利きの児童にも配慮した実習のあり方⁵⁾、色弱の児童に配慮した教材の示し方（黄色を重ねない）、食物アレルギーをもつ児童への対応とアレルギーへの理解⁶⁾を促進する学びの場の提供などが挙げられます。

3 子供たちが「多様性に気付く」

5年生最初の題材「家族の生活再発見」ではガイ

ダンスの意味合いや、自分の生活を見つめ直し、自分を支える家族にも目を向けることになります。そして今まで自分の家族のことしか見えていなかった児童がいろいろな家族形態があるのだという「多様性」に初めて気付く題材です。よく、サザエさん一家などで紹介されていますが、ここではパネルシアターで作成したものを紹介します。仕事には、お金を稼ぐ仕事のほかに家族の生活を支える家での仕事があることを、教科書のページから家庭にはどんな仕事があるかを考えさせます。その家庭の仕事は誰が行っているかあえて考えさせ、パネルシアターで展開します。パネルシアターはその都度家族構成をつれたり外したりでき、泣いているお母さんを裏返すとニコニコしてる場面が変わり、視覚的に多様な家族について考えることができます。そして6年生の最後の題材「持続可能な社会を生きる」につながります。単に「近所の人との暮らし方」ではなく、今の自分の生活は自分のものだけでなく、周りの生活とつながっていること、性別、年齢、国籍などが多様な人々が生活する中で、みんなが喜ぶ、みんなに役立つ、みんなが気持ちよく生活できるためのルールやマナー、関わりのもち方、協力の仕方を学ぶこと、は遠い世界にもつながっている「多様性」の気付きにつながります。



〈引用・参考文献〉

- 1) ミライイ HP、<https://www.hrpro.co.jp/miraii/post-909/>
- 2) 「わたしたちの家庭科5・6 学習指導書 指導展開編（上下巻）」 p80-85
- 3) 「わたしたちの家庭科5・6 指導者用デジタル教科書 DVD-ROM 編」収録「外国籍児童学習支援」
- 4) 2020年度小学校家庭科教科書のご案内、kairyudo.co.jp
- 5) 「わたしたちの家庭科5・6」 p132・133
- 6) 「わたしたちの家庭科5・6 学習指導書 入門編」 p52・53

1

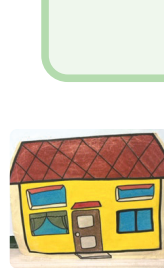
T: あら、こんなところにおうちがある、チャイムならしてみよう



C: なんだなんだ!

2

T: ピンポン、
T: はい、私、ももこ5年生よ。



C: 同じ学年じゃん!

3

T: 私の家族を紹介するね。
私は3人兄弟なの。



C: 僕と同じだ!

C: 私は一人っ子!

4

T: おじいちゃんとおばあちゃんも一緒です。



C: 私もおばあちゃんと住んでる。

C: 僕のうちと違う。

5

T: 最後に私のお父さんとお母さんよ。
お母さんはアメリカ人なの!



T: なぜお母さんは泣いてるのでしょうか?

C: お母さん外国人なんだ!

C: 家の仕事をほとんどやっていて誰も手伝ってくれないからだ!

C: お母さんが大変だからお手伝いしなくっちゃ。

C: ○○さんと同じだ!

C: なんでお母さん泣いてるんだ?

C: 私はけっこう手伝っているよ。

C: うちはおばあちゃんがほとんどしてる。

T: ももこさんの家は7人家族でしたが、家族構成は色々ですね。日本では核家族と言ってお父さんお母さんと子供、という家族構成が増えています。また、訳があってお父さんやお母さんがいない家庭もあります。このように家族の形はさまざまです。また仕事も外に働きに出ていたり、家でテレワークしていた

り、お店をやっていたりとさまざまです。ももこさんちはお母さんが主に家の仕事をしていましたが、これも決まっているわけではありません。家族の一員として家の仕事ができるよう家庭科を学んでいきましょう。